

2016-10-01

ふじさわ・九条の会ニュース

NO46



発行人 ふじさわ九条の会 事務局長 島田啓子 0466-34-5843

<http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

参議院選挙後も、市民と野党の共闘を続けよう

安倍内閣の改憲阻止に向け、新たな闘い始まる



(集会に参加した4野党代表)

雨の中、9・19国会前集会に 2万3千人の市民が集まる

上の写真は、9月19日戦争法制強行採決1周年抗議集会に多くの市民が国会前に結集した時の写真です。雨の中の集会にもかかわらず、23000人の市民が集まり、「総がかり行動実行委員会」の高田健代表、学者の会、ママの会、日本弁護士連合会の代表が、それぞれ戦争法反対の決意を述べました。

政党関係者からは、民進党の岡田前代表、共産党の志位委員長、社民党の福島副党首、生活の党の木口参議院議員ら4野党代表も参加し挨拶しました。

元自衛隊員が

南スーダン派遣問題について発言

集会の中で元自衛隊員の井筒高雄さんが、南スーダンへの自衛隊派遣の危険性について厳しい発言をしていました。「安保法制によって自衛

隊員の命が軽く扱われている」「稲田防衛大臣のジブチ入国中止は、体調問題ではなく韓国軍や中国軍の護衛を嫌ったもの」等の指摘がありました。

藤沢からは30人が参加

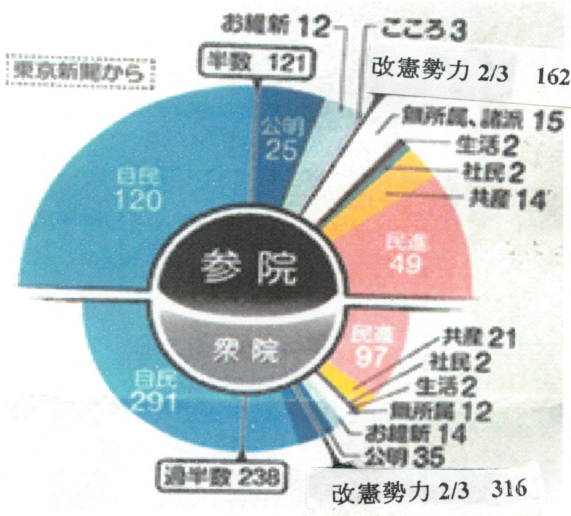
藤沢からは、雨について九条の会会員を中心に30名が集会に参加しました。

最後に、集会に集まった参加者全員、安倍政権の改憲を阻止する為には市民と改憲反対の野党が手を組んで次の総選挙でも引き続き野党共闘を継続させようと、決意を固めあいました。

(文責 小林)



一 参議院選挙の結果を どう見るか 一



安倍首相、争点そらしの選挙戦術で 2/3 確保

安倍首相は、選挙中は、憲法問題を選挙の争点にしないなどと徹底的に改憲問題は避けてきました。ところが選挙が終わると改憲勢力は2/3の議席を取ったと言い出し、憲法改正を国会審議の重大事項と位置付けてきました。アベノミクスが重要だなどと国民の目を経済問題にそらしながら、選挙が終わると憲法問題でも国民の支持が得られたかのように言い出すという、国民だましの選挙戦術だったことが明らかになりました。

選挙期間中の世論調査では

過半数の人が9条改正に反対

選挙期間中に実施された世論調査でも、過半数以上の人が憲法9条改正反対の意思表示をしていました。選挙に勝ったからと言って9条改正まで国民の支持が得られたというものではありません。

初めての野党共闘、

11の一人区で勝利

選挙では自民党が大勝しましたが、今度の選挙で野党共闘が32の1人区の内、11の選挙

区勝利したことは特筆すべきことでした。今回、1人区で野党共闘が勝った選挙区は、青森、岩手、宮城、山形、福島、新潟、長野、山梨、三重、大分、沖縄の11でした。前は2つしか当選できませんでしたが、それが今回は11も勝つことができたのです。まさに、野党共闘の成果が現れた結果だと言わなければなりません。

野党共闘の力

次の総選挙でも生かそう

参議院選で、野党共闘は、第1歩の大きな成果を上げましたが、この次の総選挙でも共闘が実現するならば多くの小選挙区で与野党が逆転し、現在与党が握っている憲法改正の国会基盤を崩すことができます。参議院選挙での野党共闘の成功は、今後の憲法改正阻止の戦いに新たな展望を開いたということができます。

参議院選挙結果についての

会員の皆さんからの感想

渡辺聖子さん (藤が岡周辺九条の会)

野党共闘！！に大いに期待をしながら、党首たちの腰の据わり方に温度差が感じられてハラハラした選挙でした。切実な問題を抱えている地域の結果にほっとして、共闘が更に確実に拡充されて欲しいです。それしかない！、今は！、と思います。

田島祥子さん (ふじさわ 九条の会)

選挙後応援候補者の落選、自公勢力2/3という結果に一時敗北気分になってしまいましたが、選挙の全体が明らかになるにつれ、新たな希望が見えてきました。

32選挙区で統一候補を立て11名を当選させた野党共闘の力(安倍首相のテコ入れの重点区を悉く敗北させた)それは立憲主義、民主主義を守り、戦争をする国にさせないという一致点で声を上げ続けたママたち、学生、学者の方等市民の決意が実現を促したという素晴らしい事実。この力をさらに豊かにしていくことが安倍政権に勝つ道なのでしょう。

私たちは、忘れない、あきらめない、屈しない。

「日本会議研究」

日露戦争を自衛戦争とみる

日本会議の歴史観について

佐藤 厚

菅野完著『日本会議の研究』は「日本会議には主義主張がなく、左翼嫌いの一点で集まった集団」という。日本会議は、安倍首相を筆頭に、憲法改正にむけ多くの自民党国会議員が参加している組織ですが、日露戦争についても、日本の自衛戦争だったと主張している日本会議の歴史観について以下紹介します。

『日露戦争をとれば、左翼は、育鵬社教科書への対抗本で「自衛戦争ではなかった」と教えよ、と記述している。これは歴史修正であり、右翼と同じく、逆の間違い。その根拠は、①1905年当時ロシア帝国は朝鮮半島を支配する方針だった(近年のロシア内部史料から)。旅順とウラジオストックの巨大な海軍力で日本海はロシアの支配に。シベリア鉄道で大量の陸軍・兵器を迅速に送れる。これは日本の最大の危機である。伊藤博文がロシアに勝つ自信がないから直々「満州と朝鮮と交換条約」を交渉するがロシアは拒否した。国交断交の通知後、戦争を開始した。②代理戦争であった。ロシア+ドイツ・フランスと日本+英国・米国、中国は表面上中立だが日本の味方。③日露戦争の大義は「ロシアが満州を占領し独占するのを排除し、万国に貿易を解放する事」であった。最新の研究で、歴史修正を克服する必要がある。』というもの。

この日本会議は、生長の家の民族派学生運動家が地道な市民運動の方法で築き上げ、神社本庁が高額の資金を出し参拝者にも勧誘している。地方議会から決議して中央の国会に嘆願する。立場は異なるが、相手も真剣である。

地に墮ちた

日本のマスコミの信頼度

国枝 健

多くの視聴者は「NHK」の受信料を払いたくないと思っている！。NHKはすっかり変わってしまった。公営放送の第1の役割は、権力の暴走をチェックすることにある。その報道は

中立、公平であらねばならない。いつから「安倍政権」に寄り添うようになったのか？在日外国人記者団による日本のマスコミの信頼度ランキングでもNHKは最下位。百点満点中7点しかない。ひどい落第点だ。東京新聞82点トップ。その中で週刊誌が元気の良いのが救いだった。

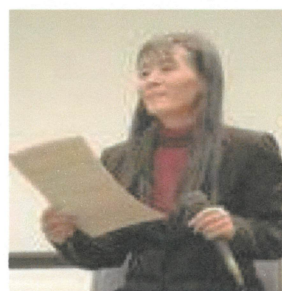
＜世界からみたマスコミの自由度

～国境なき記者団調べ～

ベスト5	主要国	ワースト5
1位フィンランド	16位ドイツ	176位中国
2位オランダ	38位イギリス	177位シリア
3位ノルウェー	41位米国	178位トルキスタン
4位デンマーク	45位フランス	179位北朝鮮
5位ニュージーランド	72位日本	180位エリトリア

日本のマスコミの自由度は主要民主国家では72位と極めて低い。NHKにお金を払って観る人はどんどん少なくなっている。「沖縄の二つの新聞(沖縄タイムス、琉球新報)はつぶさなければいけない」と喚き、直前までNHKの経営委員だった百田尚樹氏(作家)。「政府の意向に反する番組を流す電波は無審査で止める」と脅しをかける高市早苗総務大臣。自民党筋は、日経連や経済同友会を集めて、政府の意向に添わないマスメディアには広告を出さないように！など、様々な圧力をかけている。

こうした動きに対し、藤田早苗さん(英エックス大学人権センター助教授)を中心に「秘密保護法」を英訳して、国連の人権担当者に持ち回り「日本が危ない！早く特別監査官を派遣してほしい」と働きかけ、2015年12月デビット・ケイ氏の来日が決まった。



藤田早苗さん

ところが直前になって日本府がドタキャン。5ヶ月後の4月にやっと来日が実現。国連監査が1週間実施された。日本政府のこうした対応に対し、国連筋から呆れられ、



デビット・ケイ氏

日本の表現と報道の自由度に対する国際評価はがた落ちになってしまった。同じ早苗でも高市早苗とは大違い。藤田早苗さんにエールを送りたい。

< 報 告 >

川崎 健さんを悼んで

島田 啓子



当会の発足当初から世話人としていろいろな助言をいただいた川崎健さんが9月12日に逝去されました。(元東北大学教授、享年88歳) 当会の毎月の9の日行動、特に8月の江の島

一故 川崎健氏一 弁天橋での行動や秘密保護法反対街頭宣伝の時には力強くマイクを握る川崎さんの姿がありました。科学者として、世界的に権威ある総合学術誌「ネイチャー」の翻訳もされていた川崎さんをお願いして、2013年12月の16日「秘密保護法の危険性」と26日「安倍首相の靖国神社参拝への危惧」のニューヨークタイムズの社説を、なんと一晩のうちに翻訳していただき、当会のMLで流したことが思いだされます。また、憲法違反の集団的自衛権行使容認の際に、その象徴として安倍首相が何度も持ち出した掃海艇の海外派遣との関係で、江の島ライトアップ事業への掃海艇の来航が今までとは格段に危険性が増したと大きな警鐘を鳴らされました。「科学者としての社会的責任」をしばしば口にされ、その言葉どおりに科学者としての業績だけでなく、時局の危険な動きに鋭く反応され、社会運動、なごさを守る藤沢市民の会ははじめ藤沢の市民運動に大きな足跡を残されました。心からご冥福をお祈りいたします。

九条の会が、今後の運動にそなえ 全国交流討論集会開く(9/25)



9月25日全国「九条の会」が明大駿河台キャンパスで第6回全国交流討論集会を開きました。集会は、小森事務局長が情

勢報告を行い、そして、九条の会設立当初からいた9名の呼びかけ人の7名が亡くなり、現在澤地さん、大江さん、梅原さんしかいないという情勢の下で、新しく池田香代子さんや内橋克人さんら12人を世話人に選出。全国から500人、藤沢からも6人参加しました。

< 藤沢から交流討論集会参加した感想 >

黒川 朝子 江ノ電沿線九条の会
全体会では、今の情勢について鋭い分析と世界を視野に入れた明るい展望を聞き、分散会では、各地の根気強い活動報告を聞き、元気づけられました。過疎化、高齢化が進み原発と軍事施設の多い青森で、200～7000部の会報を配る活動。群馬では地元の戦没者調査をし、昭和19年からの1年9か月で第2次大戦死者の82%が亡くなり、平均26歳であったという地道な平和への活動報告。那須では、公民館まつりに展示で参加する等。身近なところからの宣伝やイベント、カフェ活動などヒントを頂きました。

= 告知板 =

< 世話人会議 >

- 10月28日(金) 18:30 ~ 推進センター
- 11月28日(月) 18:30 ~ "
- 12月16日(金) 15:00 ~ "

< 9の日行動 >

- 10月9日(日) 13:30 ~ サンパール広場
- 11月9日(水) 13:30 ~ "
- 12月9日(金) 13:30 ~ "

< 秋の一斉チラシ撒き >

- 10月12日(水) 13:30 ~ 本鶴沼市民の家

< 秋の学習会 >

- 11月13日(日) 17:30 ~ 市民会館第1展示
講師~倉持麟太郎弁護士、
慶大准教授アルマンズール氏(シリア人)

< 不戦のちかい平和行動 >

- 11月3日 13:00 ~ 14:30 サンパール広場

< スタンディング行動 >

- ★「抗議の火を絶やさない」
毎週月曜日 12:00 ~ サンパール広場
- ★「F・STAP」 毎月 第1、第4水曜日
15:00 ~ 16:00 サンパール広場
- ★「アベ政治を許さない 全国行動」
毎月3日 13:00 ~ サンパール広場